

## 平成 25 年度第 10 回青森市子ども会議開催概要

- 1 日時 平成 25 年 10 月 26 日（土） 午前：9 時 15 分～12 時  
午後：13 時～16 時
- 2 場所 青森市総合福祉センター2 階 大集会室
- 3 出席者 平成 25 年度青森市子ども委員 19 名（欠席者 11 名）  
平成 25 年度青森市子どもサポーター3 名
- 4 活動内容 子どもの権利の日イベントに向けた準備活動
- 5 開催概要

今回は、子どもの権利の日イベントに向けた準備活動ということで、企画運営チームは、イベント開催にあたり、さまざま考えられる役割ごとの話し合いを、また、作品作成チームは、具体的にどのような作品をどのような形で作っていくかなどの話し合いをしました。

### 企画運営チームの活動

まずは、どのような役割が考えられるのか、そして、その役割を誰が担当するのかをチーム全員で話し合いし、次のとおりに決めました。

- ①総合司会・全体シナリオ 2 人
- ②タイムキーパー 2 人
- ③“興味テーマ”発表時の進行役 2 人
- ④「子どもの権利に関する劇を交えた活動」  
について
  - ・台本 1 人
  - ・役者 4 人
  - ・企画 3 人
- ⑤イベント会場レイアウト 2 人

これに加え、以前からイベントでやってみようこととして意見が出されていた「子どもの権利に関するクイズラリー」も実施することになり、その担当を 4 人決めました。

このあと、企画運営チームは、それぞれの役割ごとに話し合いをしました。



### ①総合司会・全体シナリオ

イベントの総合司会には、2人から手が挙がりました。

事務局が用意したシナリオの例を参考にし、イベント全体の流れをイメージしながら、自分たちと同じ子どもたちに少しでも分かりやすいようセリフを考えていました。

また、2度3度、シナリオの読み合わせを行い、総合司会としての役割を実感していました。



### ②タイムキーパー

それぞれのプログラムには、「持ち時間」があります。

その時間をきちんと守りながらプログラムを進めていくためのタイムキーパーを置くことにしました。

今回は、「あと〇〇分」という表示板を作成しました。

今後、イベント全体のシナリオが確定した段階で、表示板を出すタイミングなどを確認する予定です。

### ③“興味テーマ”発表時の進行役

“興味テーマ”の発表では、

- 1 子どもたちから提案発表
- 2 提案相手に意見・感想を求める
- 3 子どもたちが返事をする
- 4 来場者に意見・感想を求める

というような流れで進めていくことを想定していますが、この場を仕切る進行役を子どもたちにやってみたいかどうかを聞いたところ、2人から手が挙がりました。

この進行役は、特に「4 来場者に意見・感想を求める」場面で誰からも挙手がなかったときにどうするかなど、その対応方法が難しい部分もあることを伝えました。

今後、全体の流れをイメージしながら、仕切りをどのようにしていくのか確認していく予定です。

#### ④「子どもの権利に関する劇を交えた活動」について

この劇を交えた活動については、学校で演劇をやっている子どもたちが数人参加し、そのうちの1人が台本を作成することになりました。

前回第9回の児童福祉専門分科会との合同会議で、子どもたちが当初考えていた劇のテーマ数が多すぎるので、1つのテーマに時間をかけて、伝えたいことを深めるやり方をしたほうが観ている人もわかりやすいのでは、といったアドバイスを受け、劇で扱うテーマは3つにすることにしました。

役者については、最低でも4人必要のようでしたが、現時点では2人しか決まらなかったため、今回参加できなかった子どもたちに声をかけてみることにしました。

このほか、“興味テーマ”の発表時と同様、この劇を交えた活動においても、この場を仕切る進行役が必要になりますが、子どもの権利相談センターで相談者と一緒に問題の解決に取り組んでいる「子どもの権利擁護委員」3名にお願いすることにしました。



#### ⑤イベント会場レイアウト

今回のイベント会場は、リンクステーションホール青森（文化会館）の4階にある中会議室を予定しています。

事前に事務局で会場を下見したうえで、会場レイアウトのたたき台を作成しましたが、やはりそれだけだとイメージがわからないということで、総合司会の2人と“興味テーマ”の進行役1人、劇の台本担当1人、クイズラリー担当1人と一緒に会場見学に行ってきました。

劇を披露するステージの大きさやテーブルの配置、受付をどこに設置するかなど、現場を見ながら確認していました。



このほか、イベントで実施する「子どもの権利に関するクイズラリー」で来場者に解いていただく問題を考えました。

このクイズも、ただやって当たった外れただけで終わるのではなく、“子どもの権利に関する”ことを考えてもらい、そして少しでも覚えてもらえるような、そんな内容のクイズとすることにしました。

現時点では、会場入り口までのロビーに5つの問題を設置するほか、プログラムの中でも3問ほどクイズを出す予定にしています。



### 作品作成チームの活動

子どもの権利を普及啓発させるための作品として、ポスター、チラシ、新聞を作ることとしている作品作成チームですが、今回は、まず誰がどんな内容の作品を作るのかを話し合い、子どもの権利条例にある権利の4つの柱である、

- ・安心して生きる権利
- ・自分らしく生きる権利
- ・豊かで健やかに育つ権利
- ・意見を表明し参加する権利

のうち、1番伝えたいと思う内容を選ぶことから始めました。

また、ポスターは4つの権利それぞれの作品を1つずつ合体させて、1つの大きなポスターにすることにしました。

新聞は、子どもの権利に関する記事を作品作成チーム1人1人に作ってもらい、それを大きな模造紙に貼り合わせて、1つの大きな新聞にする予定にしています。



このほか、イベント開催をさまざまな人たちにお知らせするためのチラシのデザインを作品作成チームが作成しました。

これらすべて、子どもの権利に関する学習会を通じて得た知識と、子どもたちの表現力によって作られていくこととなります。



以上、企画運営チームと作品作成チームに分かれての活動でしたが、今回、子どもたちにはイベントの顔となるイベントタイトルについて意見を出してもらいました。

本当にたくさんアイデアを出してもらったのですが、最終的に多数決で次の3つを子どもたちの案としました。

**案1 子どものKE☆N☆RI ~いつ知るの？今でしょ！！～**

**案2 みんなで知ろう！ 子どもの権利**

**案3 We have KENRI ~君が君であるために～**

次回の子ども会議までにタイトルを決定することとしました。